遺跡No	遺構種別	遺構No	時期	説明	グリッド	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
63-017	竪穴住居跡	0001	8世紀前半	—	—	—	—	—	—	1.00	—	土師器甕・台付甕、須恵器坏・瓶・高台坏、砥石
63-017	竪穴住居跡	0002	9世紀前半	1次第5号掘立柱建物跡と重複する。	—	—	—	—	—	—	カマドが新旧2基あり、北カマドが古く、東カマドが新しいとみられる。東カマドは長い煙道をもつ。	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台坏・高台椀・甕、ロクロ土師器坏、土錘、刀子、小札、鉄釘、石製紡錘車
63-017	竪穴住居跡	0003	8世紀後半	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台坏・甕、棒状鉄製品、刀子
63-017	竪穴住居跡	0004	8世紀前半	1次第5号竪穴建物跡と切り合う。覆土中には、図示できたものだけでも200点以上と非常に多量の遺物が廃棄されていた。	—	—	—	7.00	—	—	—	土師器坏・皿・蓋・小鉢・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・高台坏・盤・円面硯・脚付盤・コップ形土器・瓶・甕、土錘、不明銅製品、刀子、鎌、小札、椀型滓、鉄滓、礫、砥石、磨痕石、編物石、暗文坏・皿、墨書土器、畿内産土師器皿・蓋
63-017	竪穴住居跡	0005	8世紀前半	1次第4号竪穴建物跡及び1次第3・4号掘立柱建物跡と重複する。床面は凹凸がみられ、竪穴廃絶後に掘り込まれている可能性もある。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・皿・甕・小型甕・小壺
63-017	竪穴住居跡	0006	8世紀前半	1次第3号掘立柱建物跡を切り、1次第1号井戸と重複する。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕、須恵器坏
63-017	竪穴住居跡	0007	8世紀前半	1次第2号井戸と重複する。カマド左脇からは編物石が多く出土。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕、須恵器蓋・坏、編物石、銅製鉈尾
63-017	竪穴住居跡	0008	8世紀前半	調査区南端部に位置する。	—	—	—	—	—	—	カマドは確認されなかった。	土師器坏・甕
63-017	竪穴住居跡	0009	8世紀前半	1次第12号竪穴建物跡を切り、2次第1号竪穴建物跡に切られる。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台椀、不明石製品、石製刻字紡錘車、暗文坏
63-017	竪穴住居跡	0010	7世紀末～8世紀初頭	—	—	—	—	2.00	2.00	—	カマドは確認されなかった。	土師器甕、暗文坏・皿、須恵器坏
63-017	竪穴住居跡	0011	—	1次第13号竪穴建物跡を切り、1次第12号建物跡・第1号井戸と重複する。	—	—	—	8.00	8.00	—	—	土師器鉢
63-017	竪穴住居跡	0012	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0013	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0014	—	2次第2号竪穴建物跡と重複する。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0001	7世紀後半	調査区北端部に位置し、1次第1号溝と重複する。桁行の柱間2.4m、梁行の柱間2.7mを測る。隅柱のP3はL字状を呈する。掘方は一辺1m弱の方形を基本とする。柱穴の深さは0.6～1mで、柱筋に沿った段状掘方である。	—	3間×2間の側柱式建物	—	7.20	5.40	1.00	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0002	7世紀後半	調査区北端部に位置し、掘方は方形から楕円形である。柱穴の掘り込みはやや浅い。	—	側柱式建物	—	—	—	—	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0003	7世紀後半	調査区中央部に位置し、一部は第60次調査区に及ぶ。1次第14号竪穴建物跡と重複する。桁行の柱間1.8～2.4m、梁行の柱間3mを測る。桁行は2基もしくは3基の柱穴が溝で連結され、梁行でもP3とP13が溝で連結される。掘方は一辺0.8～1.6mを基本とする。柱穴の深さは1m程度で、柱位置はやや窪む。柱痕跡は部分的に認められ、柱の太さは20cm程度と推定される。	—	6間×2間の側柱式建物	—	13.00	6.00	1.00	—	土師器甕

63-017	掘立柱建物跡	0004	7世紀後半	調査区中央部に位置し、第1次調査区から第25次調査区にまたがり、1次第5号竪穴建物跡に切られ、25次第1号溝と重複する。床束を有する。柱間は桁行、梁行共2.4mを測る。掘方は一辺1～1.6mの方形を基本とし、桁行、梁行とも、2基の柱穴が溝で連結される。確認面からの掘り込みの深さは0.6～1.2mを測る。柱痕跡が認められ、柱の太さは約30cmと推定される。束柱は、径0.6～1.2mの円形を基本とする。深さは1mを超えるものもみられる。P9の梁行方向では、床束は認められなかった。	—	7間×3間の側柱式建物	—	16.80	7.20	1.20	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0005	7世紀後半	調査区北部に位置し、1次第2号竪穴建物跡と重複する。桁行の柱間2.4mと3m、梁行の柱間2.2mと2.4mを測る。掘方は径40～70cmの円形を基本とし、確認面からの深さは0.8～1m程度である。	—	3間×2間の側柱式建物	—	8.40	4.60	1.00	—	—
63-017	井戸跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	井戸跡	0002	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	不明	0001	—	底面は平坦である。	—	不整方形	—	—	—	—	—	軟質擂鉢、刀子
63-017	粘土採掘坑	0002	—	壁面は一部オーバーハングすることから、粘土採掘坑の可能性が高い。	—	—	—	—	—	1.00	—	—
63-017	溝跡	0001	近世	第1次調査区北端部に位置し、L字に曲がる。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	溝跡	0002	近世	第1次調査区東部に位置し、東西に走る。1次4号溝と重複する。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	溝跡	0003	近世	第1次調査区南部に位置し、東西に走る。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	溝跡	0004	近世	南北に走り、18次第1号溝及び第9・150次調査区で確認されたものと同一の溝である。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0001	9世紀後半	1次第9号竪穴建物跡を切る。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕、刀子、鋸、小札、鉄滓、暗文坏
63-017	竪穴住居跡	0002	8世紀前半	a・bの2棟が切り合うもので、第2a号竪穴建物跡が新しい。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・皿・椀・甕・鉢、須恵器蓋・坏・高台坏・長頸瓶・瓶・甕、刀子、砥石、暗文坏
63-017	竪穴住居跡	0003	8世紀前半	一辺3m程度の小型建物である。カマドからは土師器甕が2個出土した。	—	—	—	3.00	3.00	—	—	土師器坏・甕、須恵器蓋・盤・甕、鉄釘、暗文坏
63-017	竪穴住居跡	0004	8世紀後半	小型建物	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏、須恵器蓋・坏
63-017	竪穴住居跡	0001	9世紀前半	南の第60次調査区にまたがる。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏、須恵器坏・高台坏・盤、灰釉瓶、砥石、暗文坏
63-017	竪穴住居跡	0002	8世紀前半	25次第1号性格不明遺構と切り合う。両者の掘り込みは同程度で、遺構の境界線は明瞭ではない。『岡部町史』によると、25次第1号性格不明遺構は1次第4号掘立柱建物跡と併存する遺構と捉えられており、25次第2号竪穴建物跡より古いものと考えられる。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏、須恵器高台椀・盤
63-017	竪穴住居跡	0003	8世紀前半	調査区北端部に位置する。	—	不整形	—	—	—	—	—	土師器坏
63-017	掘立柱建物跡	0001	—	1次第4号掘立柱建物跡と同一の建物跡であるため欠番	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0002	—	1次第4号掘立柱建物跡の北側に近接して平行し、25次第1号溝と重複する。桁行の柱間1.8m、梁行の柱間2mを測る。掘方は径80cm前後の円形を基本とし、確認面からの深さは、60～80cmを測る。P10では柱痕跡が認められ、柱の太さは約20cmと推定される。	—	3間×2間の側柱式建物	—	5.40	4.00	0.80	—	土師器坏、須恵器甕

63-017	不明	0001	—	25次第2号竪穴建物跡と重複し、それより古いものと捉えられる。第60次調査区の性格不明遺構と併存し、1次第4号掘立柱建物跡に伴うものと推定される。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	溝跡	0001	—	1次第1号溝と方位が近く、L字に曲がる。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0001	7世紀後半	覆土にローム粒・ロームブロックを多量に含んでおり、埋め戻された可能性があると思われる。	—	—	—	4.50	4.50	—	—	土師器坏、暗文坏、須恵器甕、楔
63-017	掘立柱建物跡	0001	—	第12次調査区にまたがり、北東-南西軸がやや長い。桁行の柱間2.1m、梁行の柱間1.3～2.0mを測る。各柱穴は溝で連結しているのが特徴的である。掘方は方形を基本とし、隅柱はL字状を呈する。柱位置はやや窪む。	—	2間×2間の総柱式建物	—	4.20	3.30	—	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0002	—	10次第1号掘立柱建物跡と異なり、北西-南東軸がやや長い。桁行の柱間2.4m、梁行の柱間2.3mを測る。P1～P3の3基は溝で連結する。掘方は一辺1mを超える方形を基本とし、土層断面には柱痕跡が確認できなかったが、柱位置はやや窪む。	—	2間×2間の総柱式建物	—	4.80	4.60	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0001	9世紀前半	長軸が5m近く、カマド左脇に粘土の堆積が認められた。	—	—	—	5.00	—	—	—	土師器坏、灰釉瓶
63-017	竪穴住居跡	0002	—	土坑に切られる。埋め戻されている可能性が考えられる。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0003	7世紀末～8世紀初頭	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・甕、暗文坏、須恵器坏
63-017	竪穴住居跡	0004	8世紀前半	18次第2号掘立柱建物跡、18次第1号性格不明遺構と切り合う。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・ミニチュア・高坏・椀・甕・台付甕・把手、暗文坏・皿
63-017	竪穴住居跡	0005	7世紀後半	長軸が5m近く、長軸中央にカマドが構築される。	—	—	—	5.00	—	—	—	土師器甕・壺、土錘
63-017	竪穴住居跡	0006	7世紀後半	一辺6mを超え、やや大型である。	—	—	—	6.00	6.00	—	—	土師器坏・甕・台付甕、暗文坏、須恵器蓋・脚付盤・甕
63-017	掘立柱建物跡	0001	—	北東-南西軸がわずかに長く、柱筋の通りはあまり良くない。桁行の柱間3m、梁行の柱間2.9mを測る。掘方は径80cm程度の円形を基本とする。確認面からの深さは25～50cmで、束柱のP5は深さ15cmを測る。	—	2間×2間の総柱式建物	—	6.00	5.80	0.50	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0002	—	18次第4号竪穴建物跡と切り合い、4号竪穴建物跡より古い可能性が高い。平面形態は正方形を呈し、一辺4.5m、柱間2.25mを測る。掘方は径60～80cmの円形を基本とし、柱位置は大きく窪む。	—	2間×2間の総柱式建物	—	4.50	4.50	—	—	—
63-017	不明	0001	—	18次第4号竪穴建物跡と切り合う。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏
63-017	溝跡	0001	近世	第9次調査区で調査されたものと同一である。	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0001	7世紀末～8世紀初頭	煙道が長く、西隅部が恐らく竪穴廃絶後に掘り込まれている。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・皿・高坏・鉢・甕・甑、暗文坏・皿、須恵器蓋・坏・盤・甕、刀子
63-017	竪穴住居跡	0002	—	23次第1号竪穴建物跡と非常に近接している。出土遺物には土師器甕・甑が多い。	—	—	—	—	—	—	—	土師器坏・皿・甑・甕、暗文坏、須恵器蓋・坏・高台坏・瓶、鉄釘
63-017	竪穴住居跡	0003	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0004	7世紀後半	ほぼ正方位で、長軸5.6mを測り、長軸ほぼ中央にカマドが構築される。出土遺物は少ないが、土師器甕・甑の比率が高い。	—	—	N-0°	5.60	—	—	—	土師器椀・甕・甑
63-017	溝跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	竪穴住居跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	掘立柱建物跡	0001	7世紀後半	桁行3間(7.2m)以上、梁行3間(6m)、桁行の柱間は2.4m、梁行の柱間は2mを測る。掘方は一辺1m以上の方形を基本とし、P6とP7は溝で連結される。	—	—	—	7.20	6.00	—	—	須恵器蓋
63-017	溝跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

63-017	溝跡	0002	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	溝跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	土坑	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—